

## 難民がやってくる！！！！

【訳者注】ヴルチェックは、本欄で何度か翻訳紹介した通り、世界の底辺の事情をよく知っている、深く鋭い批評家である。発表から少し時期は遅れたが、ぜひ翻訳すべきものと考えた。このような書き方を感情的と評する人があるかもしれない。しかし彼の議論の中心にあるのは、時評というより、歴史的な観点に基づく、現在の犯罪的な世界の在り方に対する怒りである。それが現在の難民問題を通じて、いよいよ露骨に正体をあらわしてきたということである。彼が“帝国”と呼ぶものの犯罪と、故意か知らずか、それを許容し迎合する腐った世界を彼は許すことができない。これを読んで、この人を普通の“反米サヨク”だと思う人はいないであろう。世界の実態がよくわからなかった時代には仕方がなかった。これだけ“帝国”の悪逆と墮落ぶりが明らかになれば、もう騙される人はいないはずである。別の論者による、8/22「ヨーロッパの忘れられた歴史：植民地博物館の“人間動物園”から“人間戦利品”まで」も、これと同じ精神で書かれている。

By Adre Vltchek

August 14, 2015

私にはわからない——金持のヨーロッパに住むということ、主として世界中の多くの貧しい国々から、直接、略奪したことによって豊かな、ヨーロッパに住むということが、どんな気分のするものであるか、本当のところ私には分からない。あるいはそれは直接でなく、NATO のような、何らかの過激組織に加盟することによる略奪だった。なぜそれが豊かなのか、豊かになったのかを、わきまえることを拒んでそこに住むということ！

その豊かな国の宮殿、鉄道、劇場、病院、公園は、つぶされた人骨、落ちつけぬ靈魂の上に、血の海と恥知らずの盗みの上に、築かれたものである。

その後、略奪された国が次から次へと沈み始め、そこに何も残らなくなり、子供たちが飢えから死に始め、大人たちが、小さな丸石や汚い空き地の奪い合いを始めると、みすばらしい船やゴムボートが、半ば飢え、半ば狂った難民を乗せて、ヨーロッパの大理石で飾られた港へ渡り始める。

何というゾットとする光景か！ あたかも、女が髪をふり乱し、ひび割れた唇で、自分の夫を殺した後で自分を強姦した男のもとに、物乞いにやってくるようなものだ——住む場所と、

少なくとも何らかの仕事、一切れのパンを求めて。彼女がすべてのプライドを捨てる決意をしたのは、子供たちが病気で飢えていて、これを選ぶか死を選ぶしかないからである。

ヨーロッパよ、これが、お前が世界を追い込んだ姿だ——お前と、お前が生んだ巨大な、飽くことを知らぬ子孫、北アメリカよ！

あまりに自己中心で、あまりに残酷な者よ、お前は判断し感ずる能力を失ってしまった。すべての道徳的基準が崩壊した。より高い原理はもはやなく、自己利益だけがある。

カレーやコス島において、パリやロンドン、シュトゥットガルトやプラハにおいて、私は、全くまじめな顔をして、同じ質問をする人々に出会った——「どうやって、これら難民のすべてを吸収せよと言うのか？」

西洋のほとんど誰一人として、こういう疑問を口にする者はいなかった——「どうやって、これらの人々は、この長い世紀に及ぶ植民地主義、ネオ植民地主義、恥知らずの略奪、奴隷制度、企業やネオ・リベラル人食い集団の、絶え間ない、イナゴのような襲来に、これまで耐えられたのだろうか？」

盗賊、放火犯、強姦魔、嘘つき、連続殺人犯のすべてを兼ねるような者が、彼の犠牲者の住むスラム街に囲まれた、高級マンションに住むことが、道徳的に受け入れられるだろうか？

西洋、キリスト教的西洋、原理主義的西洋においては、そのような協定が、当然のように通用している。

---

ほとんどのヨーロッパ市民は、全く罪を感じていない。彼らの世界の裕福さと、他方、世界全体の何億という人々の生活破綻や、最近の移民の波との間のつながりを、見出すことができるのは、ごくわずかの者だけである。

数か月前、私の友人で同じ哲学者の Milan Kohout が、プラハのチェコ TV のスタジオで、したたかに人種差別・反移民主義のゲストたちの話を聞いた後で、かんしゃくを起こした。彼は、これがライブ放送なのに、司会者と頑迷な発言者に向かって、怒鳴り始めた。

ほとんど時を移さず、彼を侮辱する手紙が雨嵐のようにやってきた——「お前たちはこうした黒人どもを、なぜすぐに追い出さないのだ、ばかやろう」あるいは、もっと脅迫的に、「そういうことを言うお前を絞首刑にするぞ、げすやろう！」

このテレビに出た数週後に、私は彼から e メールを受け取った。

「これを書いたのは、あまり沢山の殺しの脅迫がきているので、これは本気ではないか  
と思い始めたためです。我々のサマーハウスのある村の隣人でさえ、我々を脅迫してい  
ます。これを本気と受け取るべきかどうかはわかりませんが、まあ注意した方がいいと  
思います…」

ギリシャの Kos 島では、現在、中東とアジアからの数千人の難民を受け入れているが、そ  
こには、彼らのための野営地や他の施設もない、とある勇敢な医療ボランティアが、最近の  
進展を説明した（この女性の名前は出さないことにする、すでに彼女は脅迫されているので）

「コス島の状況は、全く收拾がつかない有様です。“ゴールデン・ドーン”の右翼過激  
派は、中に完全武装している者もいて、避難民たちに対し、ポグロム（昔のユダヤ人  
に対する暴行）を始めている。誰かが大声で市長の責任を問わねばならない… 彼はそも  
その初めから、どんな結束した努力も、可能な救済方法も、考えようとしていません  
でした。」

ヨーロッパの向こう側では、英首相（キャメロン）が、イギリスの行楽客が受ける迷惑を嘆  
いて、軍隊を使うことを考えている。フランスの都市カレー周辺の“ジャングル”と綽名の  
付いた、恐るべきキャンプに住む、数千人の絶望的になった難民が、イギリスにたどり着こ  
うとし、その過程で何人かが死んでいる一方で、ユーロトンネルの交通は遅々として、しば  
しば完全停滞している。世界中の何億という人命が失われたことに責任のある（植民のため  
の民族抹殺や、人為的に起こした飢饉を通じて）大ブリテンは、現在、自国が深刻な“難民  
危機”に直面しているかのように言っているが、その国土全域で、わずか2万5,000人ほど  
の避難所志望者がいるに過ぎない。

モーニング・スター紙が書いたように――

「避難民委員会によれば、イギリスでは、すべての避難所を求める人々の74%までが、  
居住を拒否されている。2008年以降、その数は増えているのに、2014年には、避難所  
を志望する者は、最も志望者の多い、アフガニスタン、シリア、エリトリアの紛争から  
逃れてきた人々を含めて、イギリスでは2万5,000以下だった。」

ドイツ、オランダ、スカンジナビア、ギリシャでは――実はヨーロッパ全域において――右

翼の、外国人嫌いグループや運動が、無抵抗の避難民を攻撃し脅し続けている。

移民たちは、絶望的になった人間の集団、“帝国”の犠牲者としてでなく、何かの脅威か黴菌のように描かれている。

それは主として、西側の政治的エリート、マスメディア、それに大学や芸術世界の内部の、誠実性の墮落によるものである。

ところで、移民を受け入れることに賛成を表明する人々の大半は、自らよしとする“慈善心”からそうするのであって、自分たちの残虐行為の犠牲者を受け入れることが、自分たちの道徳的義務だと認めているからではない。彼らは、“ヨーロッパ砦”の門を打ち壊すことが、何世紀もの間、凌辱され略奪されてきた世界に対する、自分たちの莫大な負債の、せめてもの埋め合わせになるだろうとは、全く考えていない。

---

これはヨーロッパで見るだけの話ではない。それは、イタリアやギリシャ、マルタ島の岸にたどり着いた悲惨の一片、氷山の一角である。

世界が動いている。何千万という人々が住処を追われている。

避難民の圧倒的多数は、西洋の政治的・経済的帝国主義のために、祖国を離れることを強いられる。

シリア人、リビア人、アフガニスタン人たちは、ただ、彼らの指導者が自国民を食べさせ、住居を与え、教育しようとしたがために、爆撃されて石器時代にまで戻された。“帝国”の目から見れば、これは最大の犯罪である。なぜなら、すべての天然資源は、西側の企業、銀行、それに軍複合産業を養うのに用いられるものと想定されているからである。

エリトリア人は、独立のための長い戦争の直後に、制裁と輸入禁止によって、身体不能になってしまった。1,000万のコンゴの人民が、1995年以降、西側の同盟国——ルワンダとウガンダ——によって虐殺されて死んだ。これはワシントン、ロンドン、パリが、ウラニウムやコルタンの自由な供給を享受するためであった。多くのコンゴ人は、今、自国での想像を絶する恐怖から逃れようとしている。多くのソマリア人は、ワシントンが彼らの国を不安定化した後、逃れようとしているが、これはケニアが、EUがその海岸に有毒廃棄物を捨て始めた後、西側の直接の命令に従って、ソマリア南部を侵略した後に起こったことだ。

ビルマの Rohingya (ロヒンギヤ) 族の悲惨な有様でさえ、遡れば、アジアでの大英帝国の、怪物じみた“分割統治”にまで行きつく。

何十年、何世紀もの間、西洋は、進歩的な政府を次々と転覆し続けている。それはパトリス・ルムンバのような偉大な政治指導者を殺し続け、まともな社会主義社会を建設する試みを、完全に無化させている。

それから彼らはこう言う——「これらの黒人どもは、自分の国を治めることができないのだ…彼らが望んでいるのは、我々のところへやってきて、我々の仕事を盗み、我々の社会制度に圧力をかけることだ。」

言うまでもなく、もし介入されなかったら、現在、何百万の人民の血を流させ、“難民輸出”をしているこれらの国々は、ほぼ間違いなく、西洋と同じくらい、あるいはそれ以上に豊かになっていたであろう。これはイラン、イラク、シリア、リビア、そしておそらく、コンゴやインドネシアについてさえ言えるだろう。

現行の“難民危機”は、“ヨーロッパが世話をしなければならない問題”ではない。ヨーロッパが、こうした危機をつくり出したのである。ヨーロッパは、どんなことも“世話”をしたことはない。それは、いつもの通り、騙し、嘘をつき、何億という財産を奪った後で、小銭支出の計算をしている。それが見えない人々は盲目か、そのように条件づけられた人々、ありていに言えば、見ないように買収された人々である。

もし母なる地球が、強力に、恐るべき破壊力で叩かれたら、破片があらゆる方向へ飛び散るだろう。同じことが国家にも、国民にも当てはまる。もし平和に保たれていたら、国家は自国の民の世話をする方法を見つけるだろう。

現在の状況は、現実には、植民地化され、略奪された世界が耐えなければならない恐怖の、あふれ出した小部分の反映であるにすぎない。これは、アフリカ、中東、アジアの数カ所の内部で起こっている悪夢のわずかな一部、ヨーロッパ人の顔に跳ね返ってきた、彼らの玄関口に引きずられてきて放置され続けているものの、ほんのわずかな部分にすぎない。

---

“彼ら”にそれが見えないとはどうしたことか？ ほとんどすべての西洋のマスメディアが、沈黙しているのはなぜか？ ほとんどの現在の哲学者がこれに注意を向けず、ネオ植民地主義と移民の問題を、結びつけようとしないのはなぜか？

私がこのエッセイで言っていることは哲学的に明らかである。それに反論することは難しいだろう。フランスの哲学者ジャン・ポール・サルトルは、数十年前、「植民地主義とネオ植民地主義」で、いくつかの同じような結論に達した。しかし、それは“当時”の話である。現在は、西洋によって犯されたこの地球の略奪と、避難民の窮状を結びつけることは、タブーのようだ。

しかし私は、厳密に“理論的”な知識を信じないように、タブーは信じない。

過去数年の間に、私は、無数の戦争現場と、コンゴ民主共和国、ソマリア、アフガニスタン、シリア、イラク、バングラデッシュ、リビア、その他、多くの破壊された国からの亡命者を収容している難民キャンプの、人間の惨状を文書に記録してきた。

私がしばしば最初に目にするのは、いかにグロテスクな、耐えられない、嫌悪すべき状況に彼らが置かれているかである。レバノンというごく小さな国が、現在、200万人以上のシリア難民を受け入れているのに対し、主要な地球のガキ大将の一人であるイギリスは、その土地に受け入れている登録された避難所志望者は、2万5,000人以下にすぎない！

戦闘的な NATO 国であるトルコの知識人でさえ、隠さず正直に、新聞にこう書いている——「我々は、小さい地域的なアメリカのように行動することにした。したがって、我々は、国境を越えて我々のキャンプに住み着かざるをえなくなった、これら 180 万の避難民のために出費しなければならない。」トルコはその出費をしている。いかに戦闘的だとはいえ、彼らは西洋に比べ、少なくとも、ある程度の尊厳は維持している。

ヨーロッパの、自分の犠牲者の窮状に対する態度には、全く、ぞっとするような、偽善的な、捻じ曲がった、深く非人間的な何かがある。

もちろん、それは今始まったことではない。それは、キリスト教的ドグマと、キリスト教の文化的原理主義の両方——ヨーロッパ人の大多数の精神を絶対的に支配している要素——に深く根差したものである。そのような原理主義が、「例外主義」(Exceptionalism) だけでなく、植民地主義とネオ植民地主義を、受け入れ、推進し、栄光化さえしてきたのである。

原理主義と「例外主義」は、彼らの宗教（表面上は“世俗的”になった国でさえ）、文化、人種、生活様式を、至上のものとして誇示するようにさせた。彼らは“あいつら他者”を無関係なものとする。“他者”の苦しみは些細であり、大した問題ではない。あるいは、それは単に“存在しない”ものだ。

(ジョージ・) オーウェルは、非キリスト教徒、非白人、非西洋人は、西洋の目には、“非人民”(un-people)だと定義した。

ヨーロッパでは、あなたがどこへ行っても、行間を読むことができる——

「何百万の“彼ら”が飢え死にするなら、それでよい——ドイツやフランスが、歩道や病院を清潔に保つことができる限り、また学校が、あまりにも多くの望ましくない、外国の要素や影響力を免れる限り。

世界の破壊、何百万人もが殺され餓死すること——これは悲しいことだが、ヨーロッパや北米の、選ばれた、白人の、善良なキリスト教徒の高い生活水準のために払わねばならぬ、必要な代価である。殺戮は遠く離れた場所に留めておこう！ それをテレビのスクリーンに出さないようにしよう。犠牲者たちを見ないようにしよう。

そして、あれら汚い、文明を知らない者たちを、彼らの居場所に留めておこう。我々は彼らを、我々のリゾート・タウンや首都圏の都市で見たくはない。我々は、彼らの皮膚病や傷や吹き出物を見たくない。

すべてを焦点からずらし、できるだけぼかし、ボリュームをごく小さくしておこう。」

ある会議の間に、カリフォルニアで私が言われたことだが、「アフリカの人々が苦しんでいる映像を我々に見せないでくれ… ここでは、人々はとても敏感なことから！」ということだった。

ネオ植民地主義？ 現代の奴隷制？ 我々はそんな言葉を聞きたくない。それは冷戦時代の言葉で、ソ連と一緒に死んだのではないのか？

---

“帝国”が統治している限り、西側がこの惑星を支配している限り、避難民は、危険な海を危なっかしい小舟に乗って、際限なくやってくるだろう。

死ぬ者もあり、成功する者もあるだろう。

成功した者たちは、裁判にかけられるだろう。彼らがやったことは“不法”と裁定される。彼らは、自分たちが祖国で迫害されていること、命を脅かされていることを証明しなければならない。

これは危ないゲーム…非常にきたないゲームだ。中世の異端審問の時代のように、西洋のキリスト教の“正義（裁判）”に直面する男や女や子供は、生き延びるためには、ウソをつかなければならないだろう。

彼らはこうは言えないだろう——「私は、あなたの国が私の家族を殺したので、脱出しなければなりませんでした。」あるいは、「あなたの大陸が、私の生計を奪ったのです」とは。

迫害の恐怖…“本物の”避難民は、彼または彼女の想像上の物語や、拷問者の話を、でっち上げなければならないだろう——“帝国”が認めてくれる話を。

その時、そしてその時にだけ、避難民は少なくとも、彼らの避難所、仮住まい、一切れのパン——彼らの生まれた土地からすでに奪われたものの小さな一部——を、もらうことができるだろう。







(上から、フランス、カレの“ジャングル”キャンプ；カレの避難民締め出しフェンス；ゴマのコンゴ避難民；ギリシャ、コス島の避難民；ダダーブ・キャンプのソマリ避難民)